

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5及び別記5の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業、都道府県広域捕獲活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

広島県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県における被害防止計画の作成は、23市町全てで作成している。計画の作成は、全てが市町単独の計画で、複数市町で共同作成した計画はない。
鳥獣による令和4年度の農作物被害については、被害金額が403百万円で、そのうち約63.5%(256百万円)がイノシシによる被害であることから、計画作成の全市町がイノシシを対象鳥獣に挙げている。
対象鳥獣としては、イノシシ(23市町)、シカ(22市町)、ヌートリア(21市町)、サル(20市町)、カラス(17市町)が上位となっている。
その他、特定外来生物のアライグマを14市町、水産被害が深刻なカワウを16市町、人身被害が心配されるツキノワグマを5市町が対象鳥獣に挙げている。

2 事業効果の発現状況

県内23市町全てで鳥獣被害対策協議会が組織されている。捕獲体制(駆除班、捕獲班等)は全市町で整備され、そのうち22市町で鳥獣被害対策実施隊が設置されるなど、有害鳥獣捕獲体制の整備が進んでいる。
有害捕獲を進める箱わなの導入や捕獲活動の実施による個体数調整、侵入防止柵の設置等による被害防除、研修会実施等による生息環境管理に向けた取組が行われるなど、総合的な鳥獣害対策が講じられている。
狩猟免許取得のための講習会、わな架設講習会、鳥獣被害防止研修会の開催など、わなを中心に捕獲の担い手の確保・育成に向けた取組が進んでいる。

3 被害防止計画の目標達成状況

本県の野生鳥獣による農作物被害金額は、令和4年度は403百万円で、前年度に比べて61百万円減少した。減少の要因としては、被害額の大きいイノシシやカラスの被害を押さえることができたことが挙げられる。
一方で、県央から分布の拡大しつつあるシカによる被害の増加が目立っている。
更なる被害の低減を図っていくためには、地域ぐるみで「環境改善」を中心に、「加害個体の捕獲」、「侵入防止」を必要に応じて組み合わせた三対策を実施することが不可欠であり、引き続き被害防止計画の目標達成に取り組む。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
別紙1のとおり																	

注:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

5 第三者の意見

コメント

別紙2のとおり

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価								
										獣種	被害金額			被害面積											
											目標値	実績値	達成率	目標値	実績値			達成率							
熊野町有害鳥獣駆除対策協議会	熊野町全域	令和2年度	イノシシ	くくり罠 箱罠	37基 3基	熊野町有害鳥獣駆除対策協議会	令和2年 7月	100%	イノシシの捕獲頭数は、R1からR3までの平均捕獲頭数は平均270頭に対し、令和4年度は238頭と大幅に減少し、被害面積及び被害額も減少した。	イノシシ	300千円	395千円	-217%	42a	23a	480%	イノシシによる農作物被害は、町内全域に及んでいるため、駆除員が町内各地に箱わな、くくり罠を設置・管理している。今後も一層の捕獲頭数の増加を期待する。	対象鳥獣について、被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。							
		令和3年度	くくり罠 箱罠 発信機・受信機	37基 3基 38基	令和3年 8月		100%																		
		令和4年度	くくり罠 箱罠 発信機・受信機 電気止め刺し	20基 3基 14基 1基	令和4年 7月 10月 7月 8月		100% 100% 100% 100%																		
安芸太田町有害鳥獣捕獲対策協議会	安芸太田町	令和2年度	イノシシ	なし	-	安芸太田町有害鳥獣捕獲対策協議会	-	-	-	イノシシ	283千円	400千円	-277%	47a	78a	-520%	イノシシによる被害は令和4年度に急増したため達成率がマイナスになっているものであり、令和2年度及び3年度においては金額・面積ともに目標を達成している。 ・令和2年度はツキノワグマによる祇園坊柿の枝折れ被害により被害金額が増加したが、翌年以降は電気柵設置に係る補助金制度の拡充を図り、以降大きな被害は発生していない。 ・サギ類・カワウによる漁業被害については、地区内のコロニーでの駆除により一定の成果を上げているものの、地区外からの飛来した個体による被害が発生しており、被害を劇的に減少させるに至っていない。	対象鳥獣について、被害金額、被害面積とも増加しており、目標を達成していない。被害を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組を強化して取組んでいく必要がある。							
		令和3年度	なし	-	-		-	-	-	-	サル	229千円	33千円	884%	84a	2a			1011%						
		令和4年度	イノシシ捕獲檻	10基	令和5年2月		100%	捕獲檻の数の増加により、被害場所への迅速な対応が可能になった。	タヌキ、キツネ、アナグマ	4千円	16千円	-	3a	20a	-	ヌートリア			-	4千円	-	6a	-		
北広島町有害鳥獣捕獲対策協議会	北広島町	令和2年度	イノシシ	箱わな購入	12基	北広島町有害鳥獣捕獲対策協議会	R3.3	100%	箱わなは、捕獲班に貸与し被害多発地区への設置を行っている。被害報告のあった地域にセンサーカメラを設置し、鳥獣の動向や防止柵の設置指導に活用している。侵入防止柵は、被害地域に導入し、設置箇所については被害報告が減っている。	イノシシ	(万円)	(万円)		(ha)	(ha)		鳥獣による農作物等への被害は、発生件数及び苦情件数ともに増加しており、個々の防御の取組も増えている。しかし、適切な設置ができておらず、効果が発揮できていない場合があるため、普及啓発が必要。また捕獲に関しては、捕獲班を中心に箱わな等を使用し、被害対策を実施していきたい。	対象鳥獣について、被害金額と被害面積はいずれも減少しており、目標を達成している。今後は更なる被害の軽減に向けて、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいただきたい。							
		令和3年度	シカ	箱わな購入	13基		R4.3	100%		シカ	160	83	375%	1.8	0.2	633%									
		令和4年度	サル	センサーカメラ購入 箱わな購入 侵入防止柵(WM柵)	5台 16基 1,100m		R5.3	100%		サル	160	292	-32%	0.1	0.09	105%									
江田島市有害鳥獣捕獲対策協議会	江田島市内全域	令和2年度	イノシシ	個体数の調整	R2 箱わな(16基) くくりわな(300基) 生息状況調査(4回)	江田島市有害鳥獣捕獲対策協議会	令和2年度	100%	イノシシの捕獲数は3年続けて1000頭を超えており、個体数の調整が図られていると考えられる。	イノシシ	千円	千円	%	ha	ha	%	これまでの捕獲を中心とした対策では、これ以上の被害の軽減は見込めない状況である。今後は、農作物被害及び生活環境被害の軽減に向けて、地域を主体とした「総合防除」「防除」「環境改善」「捕獲」の一体的な取組を柱として進めていく。	対象鳥獣について、被害金額、被害面積とも減少しているものの、目標達成には至っていない。被害を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組を強化して取組んでいく必要がある。							
		令和3年度	アナグマ		R3 箱わな(12基) くくりわな(200基) 生息状況調査(4回)		令和3年度												イノシシ	8,908	13,226	51.5	2.80	3.74	66.4
		令和4年度	カワウ		R4 箱わな(8基) くくりわな(300基) 生息状況調査(6回)		令和4年度												アナグマ	121	30	175.2	0.05	0.01	180.0
										カワウ	3,550	4,193	81.9	-	-	-									

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価	
										獣種	被害金額			被害面積				
											目標値	実績値	達成率	目標値	実績値			達成率
福山市鳥獣被害対策協議会	福山市	2020年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	15機	福山市鳥獣被害対策協議会	2020.12.7	100	イノシシによる農作物被害及び市街地への出没が多発するため、地域住民からの依頼等に基づき捕獲活動を定期的に行っているが、無線機やトレイルカメラを導入することで捕獲活動の効率化を図り、短期間で有害鳥獣の捕獲へと繋がっている。	イノシシ	4,914千円	4,490千円	109%	306a	474.8a	64%	銃器を使用した捕獲活動は短期的な駆除のみならず、イノシシの追払い効果にも繋がっている。また、トレイルカメラを活用した捕獲活動を行うことで、効率的な捕獲につながっている。	対象鳥獣について、被害金額、被害面積はいずれも減少しており、被害面積は目標達成には至っていないものの、被害金額は目標を達成している。被害面積を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。
		2021年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	19機		2022.2.24	100	農作物に危害を加える有害鳥獣を駆除することを目的として、イノシシ・シカ・サルの捕獲を実施したことにより、野生動物の個体数調整が図られ、農作物被害の防止に一定の効果を得ることができた。	サル	14千円	0千円	0%	1a	0a	0%		
		2022年度	イノシシ	デジタル登録局無線機 箱わな トレイルカメラ (緊急捕獲)	9機 3基 7台		2023.2.17	100		有害鳥獣捕獲班による捕獲頭数は年々増加傾向にあり、継続した捕獲活動により更なる個体数の調整が必要である。								
		2020年度	イノシシ シカ サル	有害捕獲(対象鳥獣の個体数を低減するため、緊急的な捕獲活動を実施)	770頭 1頭 3頭	福山市鳥獣被害対策協議会												
		2021年度	イノシシ シカ サル		759頭 3頭 2頭													
		2022年度	イノシシ シカ サル		843頭 6頭 1頭													
		2022年度	イノシシ		ワイヤーメッシュ柵		1,727m	福山市鳥獣被害対策協議会	R5.3.24	100	受益圃場全体にワイヤーメッシュ柵を設置することにより、イノシシの圃場内への侵入を防ぐことができた。							
府中市有害鳥獣捕獲協議会	市内全域	R2年度	サル イノシシ	個体数調整 (ICTシステム+大型囲いわな)	1基	府中市有害鳥獣捕獲協議会	R3.3.24	100	捕獲頭数を増やし、農作物被害の軽減を図ることができた。	サル イノシシ	297万円	498万円	32%	3.14ha	5.28ha	32%	市内全域で箱わなを活用することで捕獲体制の拡充を図ることができた。今後は更なる被害の軽減に向けて、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいただきたい。	
		R3年度	イノシシ	個体数調整 (パイプ連結式箱わな)	14基		R3.10.13	100	捕獲頭数を増やし、農作物被害の軽減を図ることができた。	イノシシ	295万円	342万円	84%	3.11ha	3.93ha	74%		
		R4年度	サル イノシシ	個体数調整 (大型囲いわな+止め刺し用わな)	1基		R4.10.28	100	捕獲頭数を増やし、農作物被害の軽減を図ることができた。	サル イノシシ	297万円	329万円	89%	3.14ha	3.40ha	92%		
			イノシシ	個体数調整 (パイプ連結式箱わな)	2基		R4.10.28	100	捕獲頭数を増やし、農作物被害の軽減を図ることができた。	イノシシ	295万円	316万円	93%	3.11ha	3.31ha	94%		
神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	神石高原町全域	令和2年度	イノシシ	箱わな購入 くくりわな購入	23基 150基	神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	R2.12~	100%	有害鳥獣捕獲対策協議会による防止対策及び地域住民による被害防止対策により、捕獲頭数を増やし、イノシシの被害の軽減を図ることができた。	イノシシ						箱わな、くくりわなを購入し、貸し出すことによって捕獲活動に役立っている。捕獲数は増えているものの、被害金額及び被害面積ともに増えており、今後は捕獲隊の人材育成と人員確保が課題である。	対象鳥獣について、被害金額、被害面積とも増加しており、目標を達成していない。被害を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組を強化して取組んでいく必要がある。	
神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	神石高原町全域	令和3年度	イノシシ	箱わな購入 くくりわな購入	30基 154基	神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	R3.10~	100%	有害鳥獣捕獲対策協議会による防止対策及び地域住民による被害防止対策により、捕獲頭数を増やし、イノシシの被害の軽減を図ることができた。	イノシシ	264万円	596万円	-403%	2.7ha	6.3ha	-409%		
神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	神石高原町全域	令和4年度	イノシシ	箱わな購入 くくりわな購入 イノシシ成獣捕獲	26基 147基 32頭	神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	R4.12~	100%	有害鳥獣捕獲対策協議会による防止対策及び地域住民による被害防止対策により、捕獲頭数を増やし、イノシシの被害の軽減を図ることができた。									

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価										
										獣種	被害金額			被害面積													
											目標値	実績値	達成率	目標値	実績値			達成率									
尾道市有害鳥獣捕獲対策協議会	尾道市 全域	令和2年度		【推進事業】 イノシシ用捕獲檻	11基	尾道市有害鳥獣捕獲対策協議会	R3.1.15	100%	・イノシシ捕獲の増頭に繋がった。 ・止めさしが安全に実施できるようになった。 ・捕獲檻で効率的な捕獲が可能となった。 ・対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。	イノシシ	(万円)	(万円)	(%)	(ha)	(ha)	(%)	市街地或いは市街地に近い田畑へ出没する有害鳥獣が増えている傾向があり、捕獲檻やアニマルセンサーを導入したことで、親子での効率的な捕獲が実施できた。また、わなに掛かった個体の止めさしに、電気止めさし器を利用することで、捕獲者が安全に殺処分処理を行うことができた。	対象鳥獣について、被害金額と被害面積はいずれも減少しており、目標を達成している。 今後は更なる被害の軽減に向けて、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいただきたい。									
				電気止めさし器	21基		R3.2.12	100%																			
				アニマルセンサー	7基		R3.2.12	100%																			
				イノシシ成獣 イノシシ幼獣 シカ成獣	1,148頭 394頭 30頭																						
		令和3年度	イノシシ サル カラス ヒヨドリ ヌートリア シカ	【推進事業】 長距離無線式捕獲パトロールシステム		尾道市有害鳥獣捕獲対策協議会	R4.1.20 R4.1.20 R4.1.20 R3.11.30 R4.1.31	100% 100% 100% 100% 100%	・捕獲作業員による見回り等の捕獲作業の負担軽減に繋がった。 ・捕獲檻で効率的な捕獲が可能となった。 ・イノシシ捕獲の増頭に繋がった。 ・対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。										2,752	2,020	208	57.72	25.30	325	ほかバトの導入により、捕獲班員による見回り等の捕獲作業の負担軽減に繋がった。また、アニマルセンサーや捕獲檻を導入したことで、市街地付近での効率的な捕獲が実施できた。		
				ほかにバト(基地局)	1基																						
				ほかにバト(子機)	10基																						
				設置施工指導費他	一式																						
				アニマルセンサー	14基																						
				イノシシ用捕獲檻	2基																						
				イノシシ成獣	1,391頭																						
				イノシシ幼獣	437頭																						
シカ成獣	37頭																										
令和4年度		【推進事業】 イノシシ用捕獲檻	15基	尾道市有害鳥獣捕獲対策協議会	R5.1.31	100%	・イノシシ捕獲の増頭に繋がった。 ・小動物捕獲の増頭に繋がった。 ・捕獲檻で効率的な捕獲が可能となった。 ・対象鳥獣を捕獲することにより、個体数調整ができ、被害防除に一定の効果があった。							市街地或いは市街地に近い田畑へ出没する有害鳥獣が増えている傾向があり、捕獲檻やアニマルセンサーを導入したことで、親子での効率的な捕獲が実施できた。 また、小動物の農作物被害が増えており、小型有害鳥獣捕獲器の導入により、小動物の捕獲の増頭に繋がった。													
		小型有害鳥獣用捕獲器	5基		R5.2.10	100%																					
		アニマルセンサー	7基		R5.1.31	100%																					
		イノシシ成獣 イノシシ幼獣 シカ成獣	1,385頭 596頭 45頭																								
三次市有害鳥獣駆除対策協議会	三次市	R2	アライグマ、ヌートリア	特定外来生物防除従事者講習	1回	-	-	-								農作物の被害は減少傾向にあるが、シカやカラスの被害は増えている。集落ぐるみでの「侵入防止」「環境改善」「捕獲」の取組を推進していく。ヌートリア、アライグマの特定外来生物については、防除実施計画に基づき、引き続き、防除従事者の養成に取り組み、防除体制を強化していく。	対象鳥獣について、被害が見られない状況を維持しており、目標を達成している。 引き続き、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいただきたい。										
広島県	広島県 全域	令和4年度	イノシシ シカ カワウ等	鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(広域捕獲活動、人材育成活動)		広島県	-	100%	カワウについては総合的な対策に向けて被害状況の把握と関係機関の連携強化が進むとともに、シャープシューティングによる捕獲を実施できた。 県内22市町で実施した集落実態調査により、集落等の被害状況の把握を行い、被害対策の成功事例や課題のある集落の抽出ができた。 人材育成研修及び集中集落支援実施により市町等における指導者の育成が進んだ。 被害防除、捕獲等の対策を指導する新たな人材の育成が進んだ。							カワウについての被害状況の把握や一斉対策の取組連携など、カワウ被害防除のための総合的な対策の継続的な取組が期待される。 また集落実態調査の結果を活用しながら、人材育成研修や集中集落支援を通して育成された育成された人材が現地で活動することにより、効率的かつ効果的な被害対策を実施できるものとする。	-										
広島県	安芸高田市、北広島町、世羅町	令和4年度	イノシシ シカ	都道府県広域捕獲活動支援事業		広島県	-	100%	安芸高田市と北広島町においては、誘引餌を利用したくくりわなでの捕獲を実施し、安全で効率的な捕獲方法について捕獲従事者からの理解が得られた。世羅町においては、隣接する三原市で広域捕獲実施について理解が得られなかったため、世羅町単独での実施となり、十分な効果を確認できなかった。							安芸高田と北広島で地元の捕獲従事者に安全で効率的なくくりわなでの誘引捕獲について理解が得られたことから、有害捕獲においても同様の方法が普及し、有害捕獲の改善につながることを期待される。他の市町におけるこうした技術の普及方法についても検討する必要がある。	-										

5 第三者の意見

事業実施主体名 (協議会名)	コメント
広島市鳥獣被害防止総合対策協議会	<p>コメント:広島県クマレンジャー 田公氏 土曜日、日曜日になると、近隣の山から犬たちの元気な鳴き声がよく聞こえてきた日々です。”やっってるな”と想いつつ、聞き耳を立てていると、やがて銃の発砲音が・・・犬たちの鳴き声が一段と大きくなり・・・静かになる。”やったな！”「イノシシの駆除。ご苦労さま。」と想い描いたものです。 これは20年前のことです。 地域によっては、こうした犬の鳴き声をほとんど聞くことがなくなりました。狩猟対象の獲物が減ったのでしょうか。いいえ狩猟者の方が減ったのです。こういった狩猟をしようとしても、必要な人数が集まらないのです。高齢化等によるハンター離れに見合う若手の補充が出来ない時代になりました。経験者が減ることによって未経験者養成も困難になります。こういった悪循環により、最早この流れは止められないのでは。 こういった狩猟が行われているときは、たとえ、その日に獲物を得ることができなかったとしても、有害鳥獣たちを農地から、里山から奥山へ追いやる効果はとても大きかったのです。 こういった状況変化の行方を鑑み、これからは、ほかの被害防除の方策により力を注がねばなりません。 大きく分けて次の三策。 ア 捕獲・・・捕獲檻、罠(ワイヤーなど) イ 防御・・・トタン壁、ワイヤーメッシュ、ネット ウ 追い払い(おどし)・・・音声、花火、光、超音波の発信</p> <p>ア 安佐北区久地の稲刈りの済んだ田んぼの真ん中に稲ワラが積んでありました。その稲ワラをはねくり返して食べれる物を漁っているイノシシ1頭。50m向こうの県道では、ひっきりなしに事が往来しています。でも、全く臆することなく、稲ワラに夢中です。イノシシのところから10mの所に納屋があり、更に、50m離れて民家があります。イノシシの死角にあたる方向から、納屋の陰に近づく。気づかれていない。こちらの姿をゆっくり現わす。イノシシはすぐに気づき、しばらく、こちらを見ていたが・・・とくに慌てた様子もなく、山へ帰っていった。距離があれば、”安全”なのである。見通しのきくところでは、敵の近づくのに早く気付くことができるので、安心して行動しているであろう。箱わななどを設置する際に、とかく物影など、見通しのきかない場所を選びがちだが、必ずしも正解とは言えない。それぞれの地点の環境をよく考えて、対策をとることが大切であろう。 イ 安佐南区の車道に接した農地に、ワイヤーメッシュでセットされている防護柵の高さが250cm。何か特別の目的があるのかは分からないが、少なくとも、シカに対するものであったら、無駄が多い。200cmあればよい。しかも、舗装されている歩道に接しているので、助走してジャンプするシカにとっては、条件が悪い。偶蹄目の硬いシカは舗装面でスリッパしやすいので。さらに、ワイヤーメッシュを高く設定すると、重量により倒壊の危険性も増し、人的被害の可能性が心配になる。垂直ジャンプで120cmが可能なイノシシの侵入を70cm巾のなみトタンで防げるのは、トタンの向こうの着地点を見せないからである。資材、労力の無駄を少なくする工夫を重ねていきましょう。 ウ 超音波発信による動物の追払い方法の研究が進められています。これは、対象動物によって波長の違い、有効範囲、強さなど、これからの研究結果が期待されます。 ☆安佐北区と東区の接点にあたる位置に県緑化センターと広島市森林公園が繋がっています。このため、長者山・藤ヶ丸山々系の両面の広い範囲でイノシシ猟が制限されています。狩猟対象の獲物が逃げ込めば、それを追う猟犬も公園内に突入するからです。よって、公園を含む広い範囲が野生動物の楽園になっています。ということは、有害鳥獣にとっても、住みやすい”有害鳥獣保護区”になっているのです。 ○山際を車で通る特に出会うシカ ○夜中に、団地の民家の庭で植木の葉を食するシカたち。人間と出会っても、すぐには逃げようとしません。 ○団地内の雪上に残るイノシシの足跡等々。 狩猟圧の無くなった地域の現状です。こういった地域の今後の対策を考えていくことが重要です。</p>
大竹市有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント：イノシシによる農作物被害は減少しているものの、豚熱による一時的な減少であることが予想されるため、大竹市鳥獣被害防止計画の方針にある農家や地域による自己防衛の意識啓発等を行い、集落に有害鳥獣を寄せ付けない環境整備を推進することが必要である。 (西部農林水産事務所 林務第一課 課長 白石勝也)</p>
府中町有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント: 府中町農業会議 会長 長尾 勝 令和2年、令和3年、令和4年ともに実績が「被害なし」となっており、捕獲活動等による個体数管理の成果ができています。農作物への鳥獣被害は、耕作意欲の低下にもつながるので、近隣自治体とも連携し、継続的な取り組みをお願いしたい。</p>
海田町有害鳥獣駆除対策協議会	<p>海田町議会議員 西田)イノシシ等有害鳥獣の捕獲を順調に行っており、海田町敷地区で畑作をしている住民から、イノシシの出現が減ったとのことで感謝されている。</p>
熊野町有害鳥獣駆除対策協議会	<p>コメント:熊野町農業委員会会長 空田 忠 現行の取り組みを継続し、農作物被害の軽減に努めてもらいたい。</p>
安芸太田町有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント:豚熱の影響等によりイノシシによる被害は減っているものの、町内においても地域差があり、依然として掘り起し被害が多い地域があるため、引き続き捕獲に取り組んでいただきたい。一方、シカについて農業被害は出ていないものの、年々目撃が増えてきている。農業被害が本格化する前に効果的な捕獲方法を研究し生息域拡大に歯止めをかけていただきたい。また、こうした取り組みを支える実施隊員は高齢化等により減少傾向にある。後継者の確保についても補助制度の拡充等支援が必要ではないか。(株式会社 百姓屋 代表取締役 栗栖智典)</p>
北広島町有害鳥獣捕獲愛策協議会	<p>コメント:鳥獣被害対策実施隊員 岡本 守 有害鳥獣の被害は増加傾向にあり、農業者による農作物への被害防止策として電気柵等の設置を行っているが、捕獲による個体数の管理を行わない限り被害は減らない。捕獲班の一斉捕獲に併せ、積極的に箱わなを設置し、捕獲を行う必要がある。また、高齢化により防御が行えず苦慮している農家も多いことから、行政と捕獲班が連携を強化して、被害対策を実施されたい。</p>
江田島市有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント:捕獲にこだわるのではなく、防除と環境改善を推進することが望ましい。 「国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の堂山主任研究員」</p>
福山市鳥獣被害対策協議会	<p>コメント: 広島県 東部農林水産事務所 林務課長 イノシシの個体数調整の必要性が高まる中において、捕獲活動を担う捕獲班の安全性の確保や捕獲効率の向上を図るための被害防止対策事業を実施し、捕獲頭数が年々増加していることなど一定の効果を発揮していると評価できます。引き続き鳥獣被害を防止するために、環境整備・被害防除対策での施設の管理等、地域と連携した取り組みも期待します。</p>
府中市有害鳥獣捕獲協議会	<p>コメント: 広島県 東部農林水産事務所 林務課長 効率的で、効果の高い手法により個体数調整を行い、年々、鳥獣被害を速減してきており、被害金額・被害面積ともに概ね目標値に近い実績を出すことができています。また、先進的な捕獲手法を意欲的に活用し、他所の被害防止活動の取り組みの参考となる実績を作っています。今後も引き続き捕獲体制を拡充し鳥獣被害が軽減されていくことを期待します。</p>
神石高原町有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント: 広島県 東部農林水産事務所 林務課長 イノシシによる被害が高止まりしていることに加えてニホンジカの個体数が増加している中において、積極的な個体数調整を行い、年々、捕獲頭数が増加しており、一定の鳥獣被害防止対策効果を発揮していると評価できます。今後もより一層の対策が必要となるため、捕獲者の安全性の確保と捕獲効率の向上を図ることや、環境整備・被害防除対策での施設の管理などの講習会といったソフト面での取り組みにも期待します。</p>
三原市鳥獣被害防止対策協議会	<p>コメント: この3か年の取り組みにより、イノシシ、シカの捕獲数は増えており、狩猟免許取得者増の効果は表れています。 しかし、被害金額については目標を下回っており、特にシカによる被害が増加していることから、加害個体の捕獲に加え、シカの被害発生状況を踏まえ、地域が一体となった環境改善、侵入防止への取り組みを推進してください。 東部農業技術指導所 参事 鳩野匡規</p>

5 第三者の意見

事業実施主体名 (協議会名)	コメント
尾道市有害鳥獣捕獲対策協議会	<p>コメント: この3か年の取り組みにより、イノシシ等の捕獲数は増えており、捕獲檻の導入効果は表れています。 また、センサーを活用した被害個体の効率的な捕獲や捕獲者の負担軽減のための取り組みは、被害防止の効果を上げるだけでなく、取組実施者の意欲向上にもつながるものと思います。 しかし、イノシシやシカ以外の獣種による被害は目標を下回っており、特にカラス等の鳥類による被害が増加していることから、加害個体の捕獲に加え、鳥類の被害発生状況を踏まえ、地域が一体となった環境改善、侵入防止への取り組みを推進してください。 東部農業技術指導所 参事 鳩野匡規</p>
三次市有害鳥獣駆除対策協議会	<p>コメント: 渡辺浩毅(広島県北部農林水産事務所林務第一課長) 特定外来生物であるアライグマ、ヌートリアによる被害防止に取り組み、被害金額・被害面積とも目標を達成し、成果を上げられています。特定外来生物については、農業被害の防止はもとより、生態系の保全という観点からも積極的な防除が求められており、引き続き被害防止対策への取組が必要と考えます。</p>
広島県	<p>【農研機構畜産研究部門動物行動管理研究領域動物行動管理グループ 上級研究員 上田弘則】 市町等が行う、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、加害個体の捕獲の一体的な取組を支援するため、必要な各種対策や人材育成、育成した人材のスキルアップが行われている。 また、集落実態調査により被害状況の把握も行っており、効率的かつ効果的な被害対策の推進に資するものと考えられる。 更なる鳥獣被害の軽減に向けて、市町における支援体制の充実が図られるよう、県の支援を強化していくことが重要と考えられる。 また、広域捕獲活動においては、くくりわなを活用した安全で効率的な捕獲方法の実践がなされており、加害個体の捕獲の改善につながる取組と考えられる。 環境改善や侵入防止と組み合わせて実施することで、より高い効果が発揮されると思われる。</p>

